

しのめ 東雲

強く
正しく
よく生きよ



発行責任者(校長) 城間寿史

TEL 850-0036 (豊見城中学校)



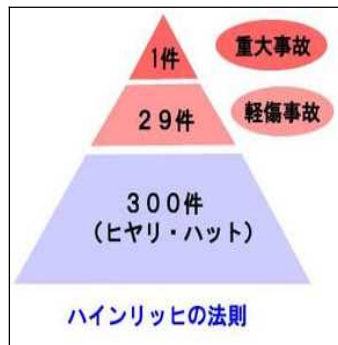
避難訓練の様子

避難訓練

5月15日に、火災を想定した避難訓練を行いました。今回は避難場所を体育館としました。でも、いざ火災発生の場合、その火災の場所によって避難する所が変わるので、放送や指示をしっかりと聞いて行動することを確認しました。ちなみに地震の場合、避難場所は「ふるじま公園」に決まっています。今回の訓練では、生徒の避難行動がとて「喋らない」「押さない」「駆けない」がよく守られていました。また、体育館で集合整列、人員把握・報告が機敏にできました。豊見城消防本部から四名の署員に来てもらいましたが、生徒の行動や態度を見て感心し、ほめていました。

ハインリッヒの法則

「1つの重大事故の背後には中くらいの事故が約29ある。またその背景には、ちょっとした異常が300ほどある」(ハインリッヒの法則)。物が乱雑であったり、物を放り投げたり、清掃用具を持ってふざけたりすることは、小さな異常ですが、その様なことをやっている、いつか大きな事故を起こす確率が高くなるということです。「まさか」ではなく「もしも」を想定すること。また「何も起きなかった」と「何も起こさなかった」の違いを認識しましょう。



部活動めぐり

各部とも、6月に開催される地区夏季大会に向けて練習に励んでいます。先生方も部活動を巡って激励したり、またはゲームで対戦したりしています。(5月10日～)



「部活動めぐり」女子サッカー部(5月16日)

ジョン万次郎

沖縄ジョン万次郎会(会長…赤嶺光秀氏)より「琉球に上陸したジョン万次郎」という本(左上の写真)を10冊いただきました。図書室に置きましたので、手にとってみてください。

万次郎は土佐(高知県)の小さな漁村の漁師でした。仲間と共にカツオ漁をしているとき嵐に遭って遭難し、アメリカの捕鯨船(ホイットフィールド船長)に助けられハワイに連れて行かれました。仲間はハワイに残されましたが、万次郎だけは、ホイットフィールド船長の好意でアメリカ本土のマサチューセッツ州に渡りました。そのときの万次郎の年齢は14歳。それから10年間アメリカに滞在しました。その間に英語を習得し、造船技術や海洋学など、たくさんのお話を学ばせてもらいました。

24歳のとき、日本に帰る決意をしました。しかしながらその当時の日本は鎖国政策をとっていて、たとえ漂流者であっても、外国から戻って来た者は厳しく罰せられる時代でした。そこでまず、日本本土よりは安全と思われる琉球国に渡りました。糸満市に上陸し、豊見城市の翁長に六ヶ月間滞在しました。



た。豊見城の村人の温かい人情に触れたこと、村の行事に参加したこと、万次郎は生涯忘れなかつたといわれています。